

令和元年度

事務事業評価表 A (平成30年度の実績評価)

記入年月日
平成 31 年 4 月 1 日

事務事業名		伝統的工芸品支援事業				事業区分		担当		
		政策体系上の位置付け				新規/継続 単独/補助		事務事業No. 040203000537		
総合計画の施策名		0402 商工業の振興				単独		050301		
政策体系	政策名	04 活力ある産業のまちづくり				主要事業		所属課 商工観光課		
	施策名	02 商工業の振興				市長マニフェスト				
	手段名	03 石材業の振興				未来PJ事業		グループ 商工観光グループ		
		財務会計上の位置付け				事業期間				
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計 単年度繰返し (平成7年度~)			
	01	07	01	02	01	00	商工振興事業			
法令根拠						事業期間		期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入		

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その1)

(1) 事務事業の概要	
①事務事業の概要(事務事業の全体像)	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
<ul style="list-style-type: none"> 伝統的工芸品の重要開拓・販路拡大を増進、また、各産地の交流促進・振興・活性化を図るための事業 伝統的工芸品産地交流促進協議会参画 伝統的工芸品産業振興協会参画 	<ul style="list-style-type: none"> 負担金支出(申請受付→内容審査→補助金交付決定→実績報告書受付) 伝統的工芸品産地交流促進協議会への出席 いばらき伝統的工芸品産業イノベーション事業の推進 伝統的工芸品出展の支援 伝統工芸士の叙勲の推薦

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段 (担当者の活動内容)		④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (計画)	02年度 (目標)	03年度 (目標)
<ul style="list-style-type: none"> 伝統的工芸品産地交流促進協議会への出席 伝統工芸士の叙勲の推薦 伝統的工芸品展の支援(県郷土工芸品・県庁展) いばらき伝統的工芸品産業イノベーション事業(マーケティング調査) 	各種会議への参加	回	12.00	12.00	10.00	10.00	10.00	
	伝統的工芸品展の開催数	回	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	
				0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
				0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)		⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (計画)	02年度 (目標)	03年度 (目標)
伝統的工芸品の産地、真壁石燈籠の伝統工芸士	市内指定産地	箇所	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	
	伝統工芸士	人	21.00	21.00	22.00	23.00	24.00	
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)		⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (計画)	02年度 (目標)	03年度 (目標)
イベントや交流事業への参加を通じ、真壁石燈籠等の石材工芸品のPR・販路拡大につなげる。	伝統的工芸品展出展者数	人	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00	
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

(3) 投入量(事業費)の推移

投入量	事業費	国庫支出金	千円	2,338	4,166	0	期間限定 総投入量
		県支出金	千円	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	
		使用料・手数料	千円	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	
		一般財源	千円	2,688	4,518	358	
		事業費計(A)	千円	5,026	8,684	358	
	正規職員従事人数	人	1.00人	1.00人	1.00人		

事業費の内訳	30年度事業費 実績(千円)			01年度事業費 予算(千円)		
	19 負担金補助及び交付金	8,684				
	合計	8,684				358

(4) 当該年度の実施内容		01年度の事業内容	02年度の事業内容	03年度の事業内容
※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する ・主要事業 ・市長マニフェスト ・未来PJ事業 ・合併建設計画事業				

事務事業名	伝統的工芸品支援事業	事務事業No.	40203000537	所属課	商工観光課
-------	------------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?

平成7年4月5日に経済産業大臣指定の伝統的工芸品として「真壁石燈籠」が指定を受けた。茨城県内の伝統的工芸品産地組合(桜川市/真壁石燈籠、笠間市/笠間焼、結城市/結城紬)が協力して展示会などに出席することにより、消費者に効果的にPRをし、新たな需要開拓に努めた。

(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?

- ・伝統的工芸品の価値を高めたい
- ・伝統工芸士が高齢化し、また、担い手もいない

(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容

現状維持

伝統的工芸品を含め石材業界はかなり厳しい状況にある。従来の製品ではなく新たな石の活用を模索し新商品を作り出す必要がある。

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目

目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	伝統的工芸品の販路拡大、需要開拓が目的であり、地域経済の活性化に結びついている。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	伝統的工芸品「真壁石燈籠」の知名度を活かし、本市の石材産業の推進役を担っている。
	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	石燈籠の需要は低下しているが、伝統工芸士作という付加価値を高める必要がある。
有効性	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?)	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有	真壁石燈籠は石のまちのシンボリックな存在であり、本事業を廃止・休止した場合、さらなる石材業の衰退につながる可能性がある。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない	伝統的工芸品は地域間の連携により実施しているものであり、統廃合の可能性はない。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	H28~30は伝統的工芸品産業イノベーション推進事業を実施しているため、事業費や業務時間の削減はできないが、H31以降は事業の自立化により事業費・業務時間も削減可能である。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である	伝統的工芸品は本市を代表する特産品であり、負担金は公正である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																		
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇨	H28~30にかけて地方創生推進交付金を活用した伝統的工芸品産業イノベーション推進事業を実施。産地戦略ビジョンを策定し新商品の開発やテスト販売を実施した。また、H30はインターネットを活用した販売を行った。																		
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																		
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																		
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		<table border="1"> <tr><th colspan="3">コスト</th></tr> <tr><th></th><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr> <tr><th rowspan="3">成果</th><td>向上</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>維持</td><td></td><td>×</td></tr> <tr><td>低下</td><td></td><td>×</td></tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上	○		維持		×	低下		×
コスト																				
	削減	維持	増加																	
成果	向上	○																		
	維持		×																	
	低下		×																	
販路拡大を目指しているが、石製品は加工に手がかかり高額になってしまい、購入に結びついていない。		(6) 事務事業優先度評価結果																		
		成果優先度評価結果 ②																		
		コスト削減優先度評価結果																		

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A:継続(現状維持) C:終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B:継続(改革改善を行う) D:2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>